

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	福島区
学 校 名	大阪市立上福島小学校
学校長名	池田 眞一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立上福島小学校では、第6学年 44 名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数ともに大阪市平均、全国平均を大きく上回る結果となった。平均正答率は、全国平均と比べ国語8.3ポイント、算数8.6ポイント上回っている。また、平均無回答率が国語は2.1ポイントと大阪市平均、全国平均よりも良好な結果となっている。しかし、算数は3.4ポイントと全国平均と同じであるが、大阪市平均より0.2ポイント下回っている。

児童質問紙についても、肯定的な回答をする児童の割合が全国平均を大きく上回る結果が多数見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕すべての領域（言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）において全国平均を大きく上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域においては、全国平均を12.6ポイントも上回っている。学習の中で様々な話し合い活動を通して、自らの意見や考えを发表或し、友だちの意見や考えを聞いているため、深い学びにつながったと考えられる。また、日々の読書活動や「こども新聞」を活用することで語彙力を伸ばし、教科等の学習の基盤となる言語能力の育成につながったと考える。

〔算数〕すべての領域（数と計算、図形、変化と関係、データの活用）において全国平均を大きく上回っている。特に全国平均が最も低い「変化と関係」の領域では、16.6ポイント上回った。本校では、算数科の教科担任制（専科指導制）を導入している。それにより専門的な指導の充実が図られ、成果が見られたと考えられる。しかし、無回答率の多さに課題がある。特に積の求め方と答えを書く問題の無回答率が大阪市平均、全国平均より高かった。答えは正解できるのだが、十分な理由を吟味する経験が足りていないためと考えられる。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」や「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」のいずれの項目においても90%以上の児童が肯定的な回答をしており、自己肯定感や日々の学校生活における満足度の高さが見られる。心の安心感は学校生活への意欲に大きく関わっており、そのことが学力の向上に成果として表れている。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目においても90%以上の児童が肯定的な回答をしており、全国平均を上回っている。本校児童は、地域社会とのつながりを大切に思う気持ちが強い傾向が見られる。

今後の取組(アクションプラン)

今年度の本校重点目標の一つとして「つながりを通じた自己向上力の育成」を掲げている。児童質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、児童の肯定的な回答が93.2%であった。全国平均以上ではあるが、今後も教員の指導力向上に努め、主体的対話的な授業を推進していきたい。児童質問紙「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（7）友達と協力しながら学習を進めることができる」において、95.5%の児童が肯定的な回答をしている。今後もICT機器を効果的に活用し、友だちと協働して学習する授業、視覚的に分かりやすい授業、どの子もわかる喜びを感じられる授業をめざしていきたい。